

民報 ゆうばり

政治変革の願いひしひしと

1市4町の会トラックキャラバンに138人参加



市民と野党が力をあわせ、選挙で政治を変えよう！

9月19日、今年4回目となる1市4町の会のトラックキャラバンが行われました。

ちょうど6年前のこの日、安保法制（戦争法）が強行されました。その時、10万人に及ぶ人たちが国会を包囲し、抗



議の声をあげました。その後、全国各地に市民連合ができ、夕張では「1市4町の会」として、「9条改憲NO！憲法を守り、生かす政治へチェンジ！」を訴えてきました。

午前10時、南幌町、農協ストア前から始まったトラックキャラバンは、37名が参加しました。

私も一言いわせて！

話を聞いていた人が、「私も一言いい

たいのですが」と突然のどび入り発言で、菅政権への批判もありました。

菅自公政権への怒り発言次々と

その後、長沼、由仁、栗山と移動しながら、命を守らない菅自民・公明政権に対する怒りの発言が次々とありました。

各地域のアピール場所では、立憲民主党・日本共産党・社



会民主党的野党3党のノボリが立ち並び、その周りには、各地域の平和団体のノボリなどがところ狭しと立てられ、20本をこえるノボリと横断

幕は、見事な景観をなしていました。最後の行動は、夕張コープサッポロ店で、最初に、立憲民主党の千葉清美栗山町議が挨拶。

つぎに、日本共産党くまがい桂子夕張市議が「今、テレビでは、自民党の総裁選がまるで、報道ジャックしたかのよう

に毎日、テレビから流されています。菅政治のもつ、無為無策の新型コロナ対応や、東京五輪の強行による感染爆発、医療崩壊が現実



になりました。命を軽んじる自民公明の政権から、市民と野党の共闘で、野党連

「公営の合葬墓・樹木葬について」くまがい市議が9月議会で質問

9月議会の質問3件のうち最後の1件について、お知らせします。(他2件は前号に掲載)

質問：市町村に責任のある無縁遺骨、公営の合葬墓や、全国でもニーズの高い「樹木葬」について、どのように考えていますか。

答弁：現在市営墓地は、市内に7か所あり、5008基の利用がありますが、過去3年の実績では新規が27件に対し、墓の移転などの改装が124件となっています。

また、無縁遺骨は労働団体の「無名碑」にお願いしている状況です。

3年前から他市町の合葬墓を調査しており、今後将来のまちづくりをみすえ、規模や場所、管理の方法など多角的に検討を続けていきます。

意見：ぜひとも夕張の自然を生かした「樹木葬」も含め、市民から喜ばれる公営墓を造っていただければ、要望します。





命を軽んじる自公政権から
命を守る野党連合政権へ

合政権をつくり、希望ある新しい政治を実現させましょう。」と話しました。

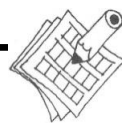
また、今回共催の「南空知憲法共同セクター」から4名が、参加し、事務局長の卜部喜雄さんが挨拶に立ちました。

最後に、「明日の



平和をつくりだす夕張の会」から、熊谷泰昌さんが「市民連合と立憲野党4党が、結んだ政策合意一つ、ジェンダー平等について、今女性のみなさんが、本気で行動を起こせば、政治は変わります。今度の衆議院選挙、市民と野党が力をあわせて政権を勝ち取る歴史的選挙にしよう」と訴えました。

今回は、延べ138名という、最大の参加者となり、長引くコロナ禍社会の中で、昔自公政権に対する怒りの声が町中に響きました。



くずさんの 夕張歴史散歩 (166)

石炭博物館模擬坑の火災 (番外編①)

この稿の前回に伝統的な木枠くずみの一つとして「空子積み」と書きました。読者から「空子積み」について質問がありました。

これは「カラコ積み」と読みます。

坑内で天井部分(天盤)が崩落し、すっぽりと抜け落ちるときがあります。

その際に崩落を食い止めるため、丸太材(坑木)を井形にくみ上げて天盤を押さえる手法を言います。

切羽支柱の方法

山の中を深く掘りすすみ石炭を掘りだす炭鉱の作業は、危険と隣り合わせの作業です。

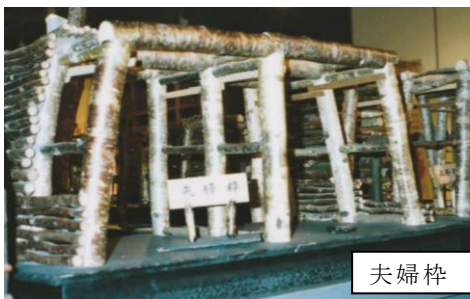
地中をトンネルのように掘るので、当然に左右上下と四方から地圧(盤圧)押しつぶされます。とりわけ切羽(採炭の直接の面)の部分は強く盤圧がかかります。

この盤圧を支え安全を保つ「支柱」という職種があります。この支柱の方法には、いくつもの型があり「空子積み」もその一つです。

このほかに一般的な「四ツ枠」があり、「三ツ枠」「四本合掌枠」などがあります。なかには「夫婦枠」とか「千鳥枠」など粋な名前の枠組みもあります。



四ツ枠



夫婦枠



前衆議院議員

畠山和也

畠山和也「かけある記」

保健所や医療機関を守れ

報道各社からの取材や政策アンケートなどが、次々と舞い込んできています。いよいよ総選挙近し。ぜひ「比例は日本共産党」を、道内・全国どこでもお広げください。

ある記者さんとの雑談で、保健所職員の働き方が話題になりました。土日もなく、夜も遅くまで働き、それでも連絡がつかない場合もある実態を、どう報じたらいいかと悩まれたそうです。「国民の健康を守れなくなるほど、自公政権のもとで職員が減らされ続けました。医療や保健など、命を守る土台を建て直す政治に変えたい」と話すと、大きくうなずき聞いてくださいました。

「これまでの苦しみを声にして選挙をたたかう」との発言があった、道民医連有志後援会による決起集会。コロナ禍で責任と緊張に医療現場は覆われ、それは一年半が経った今も続いています。命を守るためには職場での連携が必要なのに、必要以上に会話はできない、いっしょに食事もできない——張り詰めた空気のもとで心がすり減っていくという話を聞いたときに、政治が医療現場を守れ！と心から思いました。

新しい自民党総裁・総理になろうとも、ケアを支える政治になるとは思えません。そもそも総裁選挙のときから、誰とも連絡できず自宅で亡くなった国民が相次いでいることに胸を痛めた発言など聞かれました。国民を突き放すような政治は、もういらない。日本共産党の躍進と、市民と野党の共闘で必ず政権交代を！

引き続き私も訴え続けます。